

平成28年度版 交通事故の実態



◆交通事故発生状況

◇共済種目別事故発生状況

(H27.04～H28.03)

◆交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(平成27年度)

◇発生事故に係る支払共済金・備金総額

◆過去5年間における高額賠償事案の事故発生概要

◇運転者年齢層別の事故発生状況(全事故)

◆運転者年齢層別の検査・診断結果

◇交協連傘下15組合の平成27年度事故発生状況



神奈川県自動車交通共済協同組合

<http://shinkokyo.or.jp/>

平成 28 年度版「交通事故の実態」の発行にあたって

発行にあたって

当組合は交通事故の防止を組合の最重要課題として取り組んでいます。

平成 26 年度は全共済種目で発生事故は減少しましたが、支払共済金・備金総額が前年度を上回る結果となり、主力の対人共済ならびに対物共済では高額賠償事案が増加し、総合損益に大きな影響を及ぼす結果となりました。

平成 27 年度は、前年度の状況を踏まえ、次の通り交通事故防止重点項目を掲げ、これの徹底をはかり交通事故の防止に取り組みました。

- 追突・後退事故の根絶
- 交差点事故の根絶
- 構内事故の根絶

ここに、平成 28 年度版「交通事故の実態」として、平成 27 年度の発生事故についての統計資料を公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減らすため、事業所の事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた全ての種目の事故（複数種目の事故を一件として）の件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

CONTENTS

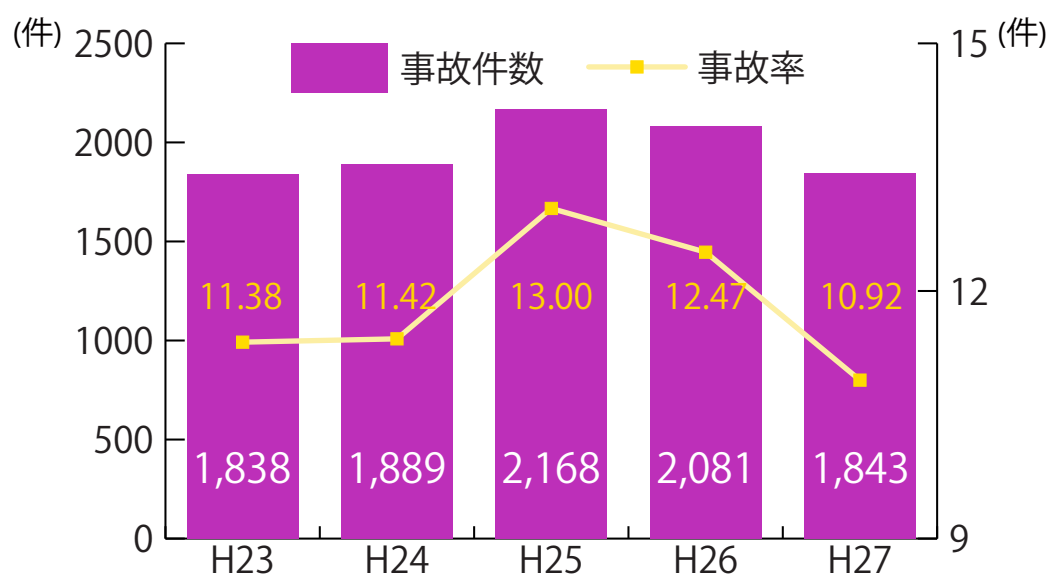
～ 目 次 ～

1. 交通事故発生状況…………… 1 頁
 - (1) 事故発生件数と事故率（平成 23 ～ 27 年度 全事故）
 - (2) 月別事故発生件数（平成 27 年度）
 - (3) 類型別事故発生件数（平成 27 年度）
 - (4) 道路形状別事故発生件数（平成 27 年度）
 - (5) 発生時間帯別事故発生件数（平成 27 年度）
 - (6) 運転者年齢層別事故発生件数（平成 27 年度）
 - (7) 原因別事故発生件数（平成 27 年度）
2. 共済種目別事故発生状況…………… 5 頁
 - (1) 共済種目別事故発生件数・事故率
 - (2) 対人共済被害者数（死亡・後遺障害・傷害）
 - (3) 対物共済類型別件数
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況（平成 27 年度）… 6 頁
 - (1) 追突事故の実態
 - ① 追突事故の発生場所別と事故原因（全事故）
 - ② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
 - ③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス
 - (2) 交差点事故の実態
 - ① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）
 - ② 交差点事故の事故原因（全事故）
 - ③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
 - ④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス
 - (3) 構内事故の実態（対物共済）
 - ① 構内事故の類型別事故状況
 - ② 構内事故の事故原因
 - ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金・備金総額
 - ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス
 - (4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）
 - ① 交通弱者との道路形状別事故状況
 - ② 交通弱者の事故原因
 - ③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金・備金総額
 - ④ 交通弱者年齢層と事故発生場所
 - ⑤ 交通弱者被害者類型・態様別
 - ⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス
4. 発生事故に係る支払共済金・備金総額…………… 15 頁
過去 5 年間に於ける共済種目別（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額
5. 過去 5 年間に於ける高額賠償事案の事故発生概要…………… 15 頁
 - (1) 対人共済
 - ① 高額賠償事案（1,000 万円以上）70 件の事故発生状況
 - ② 道路形状別の事故発生状況
 - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
 - ④ 原因別の事故発生状況
 - ⑤ 類型別の事故発生状況
 - (2) 対物共済
 - ① 高額賠償事案（200 万円以上）230 件の事故発生状況
 - ② 道路形状別の事故発生状況
 - ③ 発生時間帯別の事故発生状況
 - ④ 原因別の事故発生状況
 - ⑤ 類型別の事故発生状況
6. 運転者年齢層別の事故発生状況（全事故）…………… 20 頁
 - (1) 過去 5 年間に於ける運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
 - (2) 過去 5 年間に於ける運転者年齢層別の類型別事故発生状況
 - (3) 過去 5 年間に於ける運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
7. 運転者年齢層別の検査・診断結果…………… 21 頁
 - (1) 可搬型事故防止機器アクセスチェッカー
 - ① 運転に必要な反射動作能力（単純反応検査）
 - ② 状況の変化に対する反応の速さと正確さ（選択反応検査）
 - ③ ハンドル操作（ハンドル操作検査）
 - ④ 複数課題への注意配分（注意配分・複数作業検査）
 - (2) セフティテスト診断結果
 - ① ものを見たり、判断したり、決心するときの速さ
 - ② ものを見たり、判断したり、決心するときの正確さ
 - ③ 運転するにあたっての性格・態度の特徴
8. 交協連傘下 15 組合の平成 27 年度事故発生状況…………… 27 頁

1. 交通事故発生状況

(1) 事故発生件数と事故率（平成23～27年度 全事故）

事故発生件数と事故率は平成25年度までは増加しましたが、平成26年度以降は、契約台数は増加している中において、2年連続で減少しました。



※発生件数は各年度の決算時の件数を示します。

※事故率は100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

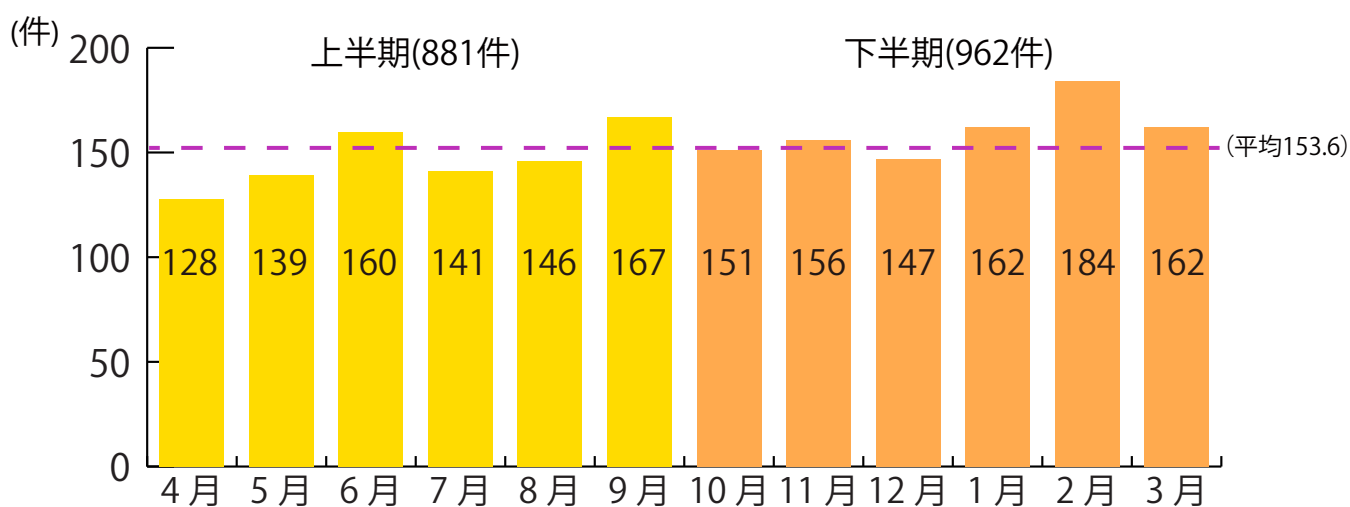
「共済種目別事故発生件数」

(件)

	H23	H24	H25	H26	H27
対 人	496	505	501	443	463
搭 傷	16	9	15	12	8
対 物	1,598	1,650	1,775	1,640	1,617
車 両	76	98	107	107	117
合 計	2,186	2,262	2,398	2,202	2,205
実際の事故件数	1,838	1,889	2,168	2,081	1,843

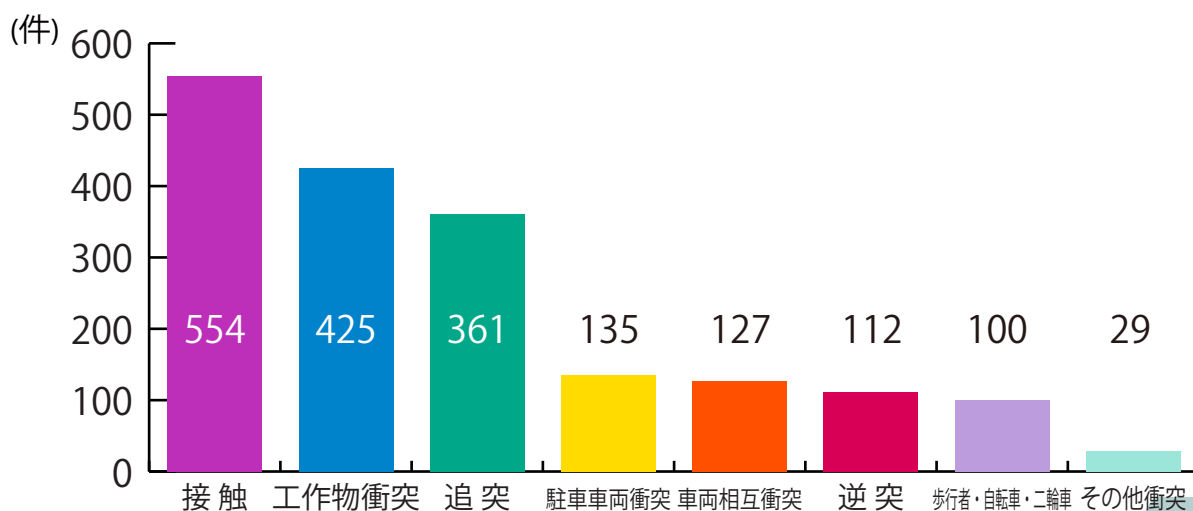
(2) 月別事故発生件数（平成27年度）

月別の発生件数では、2月が降雪の影響により最も多く、続いて9月、1月、3月に多く発生し、下半期は12月を除き全ての月で150件を超える事故が発生しました。



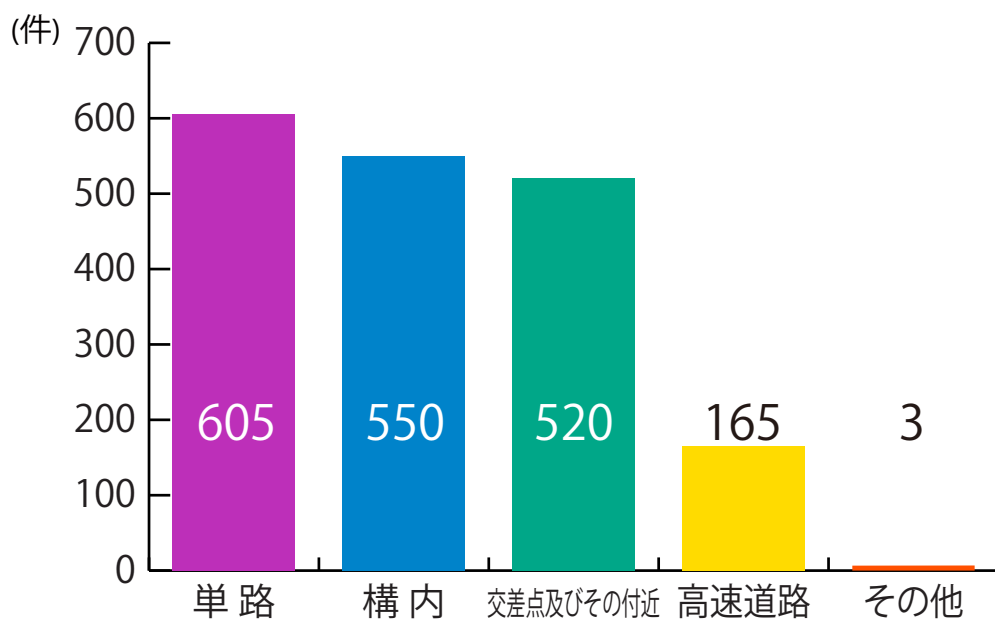
(3) 類型別事故発生件数（平成27年度）

類型別では、合流地点での他車との接触事故などが多く発生し、また近年、工作物への衝突事故が増加しています。



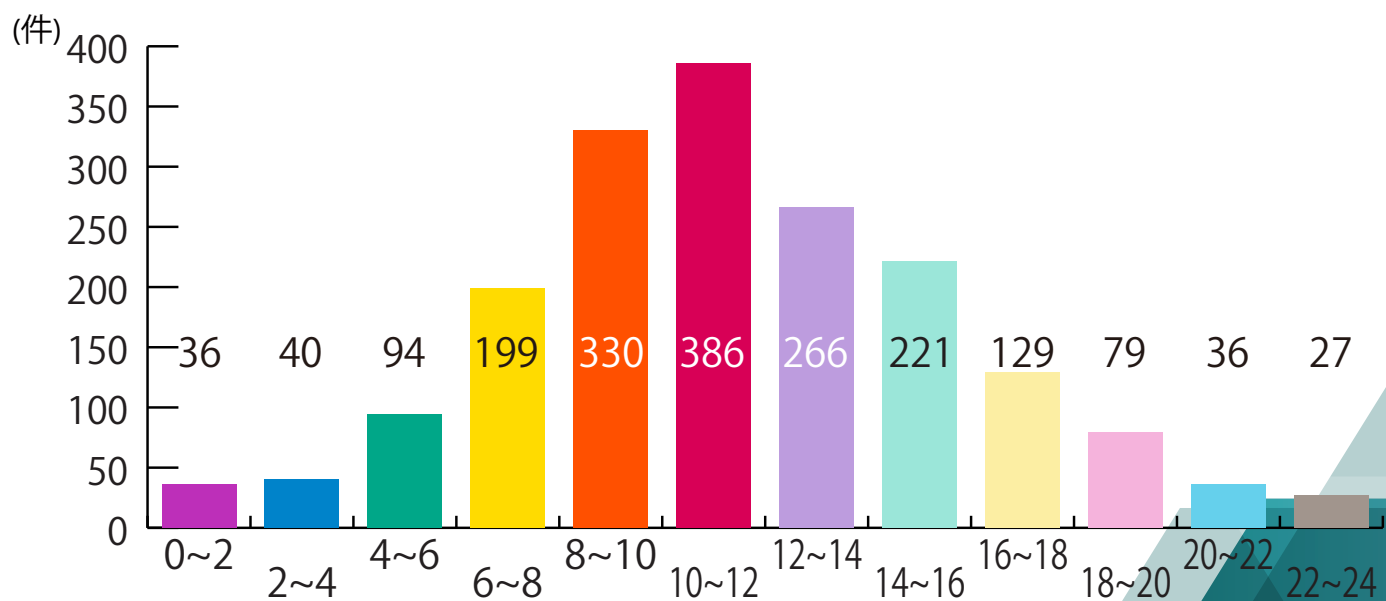
(4) 道路形状別事故発生件数（平成27年度）

道路形状別では、単路での事故が最も多く発生していますが、近年、構内での工作物衝突事故が増加しています。



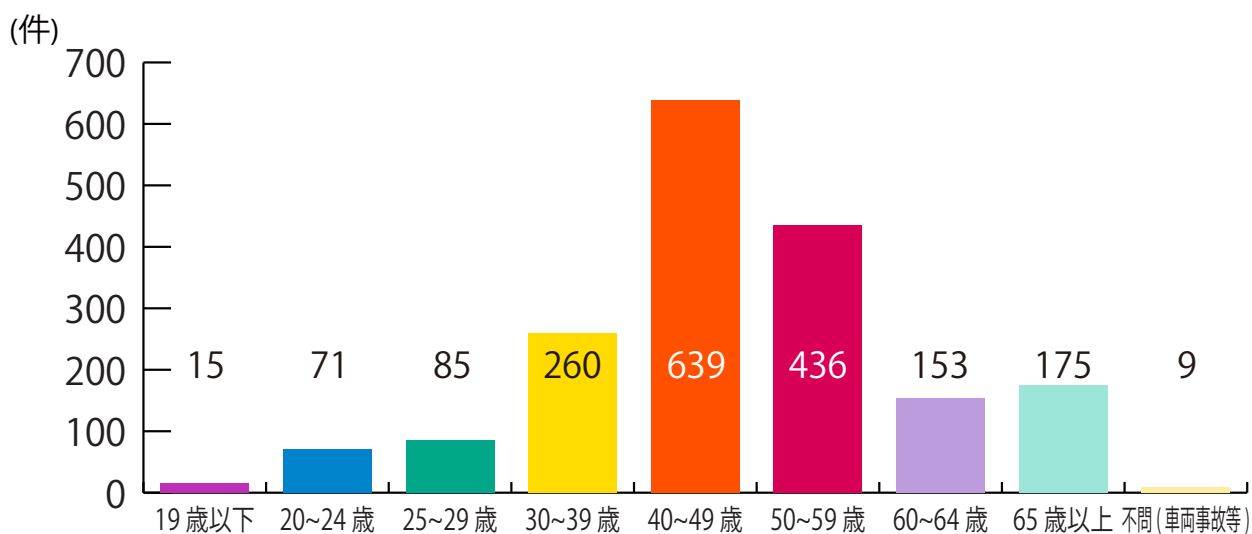
(5) 発生時間帯別事故発生件数（平成27年度）

発生時間帯別では、交通量が増える8時から12時までの時間帯に多く発生しています。



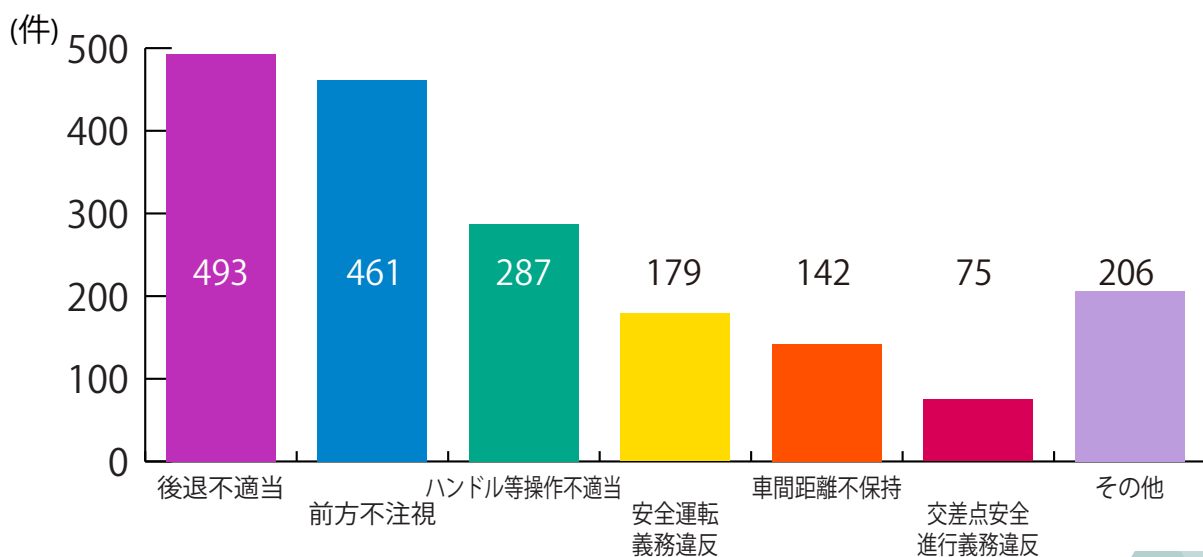
(6) 運転者年齢層別事故発生件数（平成27年度）

運転者の年齢層別では、40歳代が最も多く、また65歳以上は過去5年間で最多となっています。



(7) 原因別事故発生件数（平成27年度）

原因別では、多発している構内事故の発生要因となっている後退不適當、追突事故の主な要因となっている前方不注意により事故が発生しました。



※安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

※交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

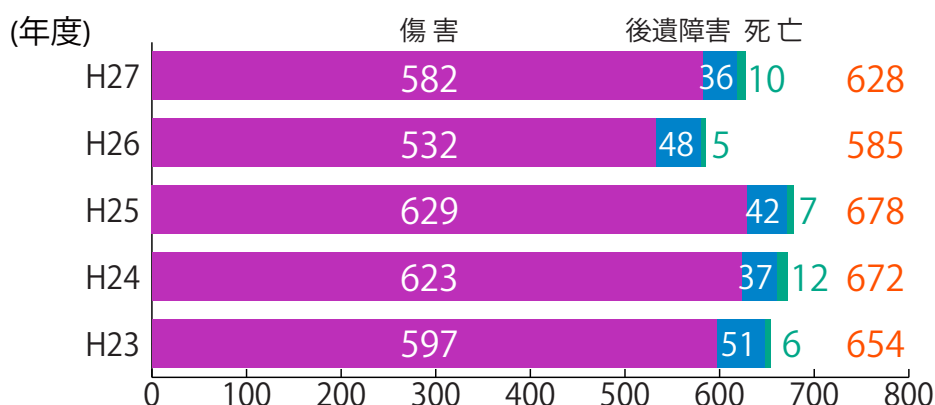
2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

共済種目別		年 度	H23	H24	H25	H26	H27
対人	発生件数(件)		496	505	501	443	463
	死者数(人)		6	12	7	5	10
	傷者数(人)		648	660	671	580	618
	事故率(件)		3.07	3.05	3.00	2.65	2.74
搭傷	発生件数(件)		16	9	15	12	8
	事故率(件)		0.31	0.16	0.27	0.21	0.13
対物	発生件数(件)		1,598	1,650	1,775	1,640	1,617
	事故率(件)		13.05	13.03	13.63	12.51	12.06
車両	発生件数(件)		76	98	107	107	117
	事故率(件)		6.50	7.13	7.22	6.70	6.51

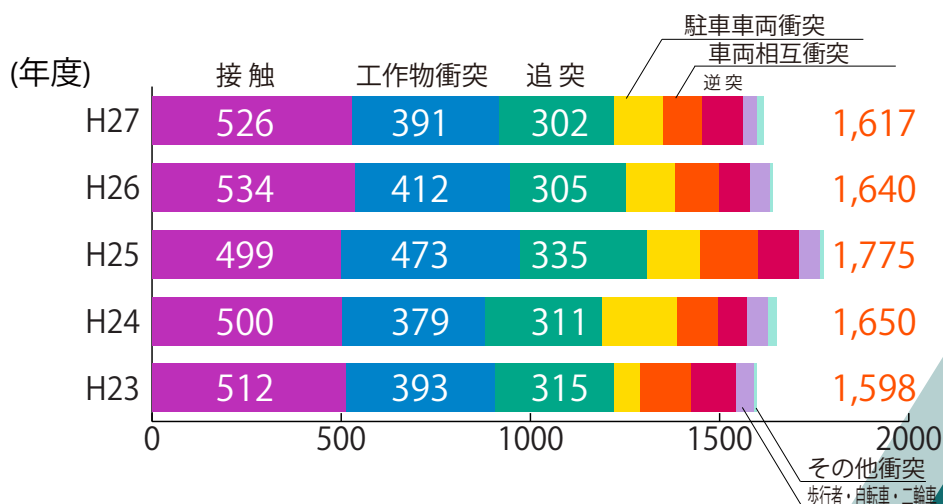
(2) 対人共済被害者数(死亡・後遺障害・傷害)

平成27年度対人事故は463件発生し前年度と比べ20件増加しました。そのうち死亡事故は5人増加の10人、傷者数は追突事故等、事故1件当りの傷者数が増加し38人増加の618人となり、件数、死傷者数ともに増加しました。また、死亡・後遺障害事故は各年度の被害者数に対して8%前後の割合で発生しており、高額賠償事案につながっています。



(3) 対物共済類型別件数

平成27年度対物事故は1,617件発生し前年度と比べ23件減少しました。また類型別では各年度ともに、接触事故が約3割、工作物への衝突事故が4件に1件の割合で発生しています。



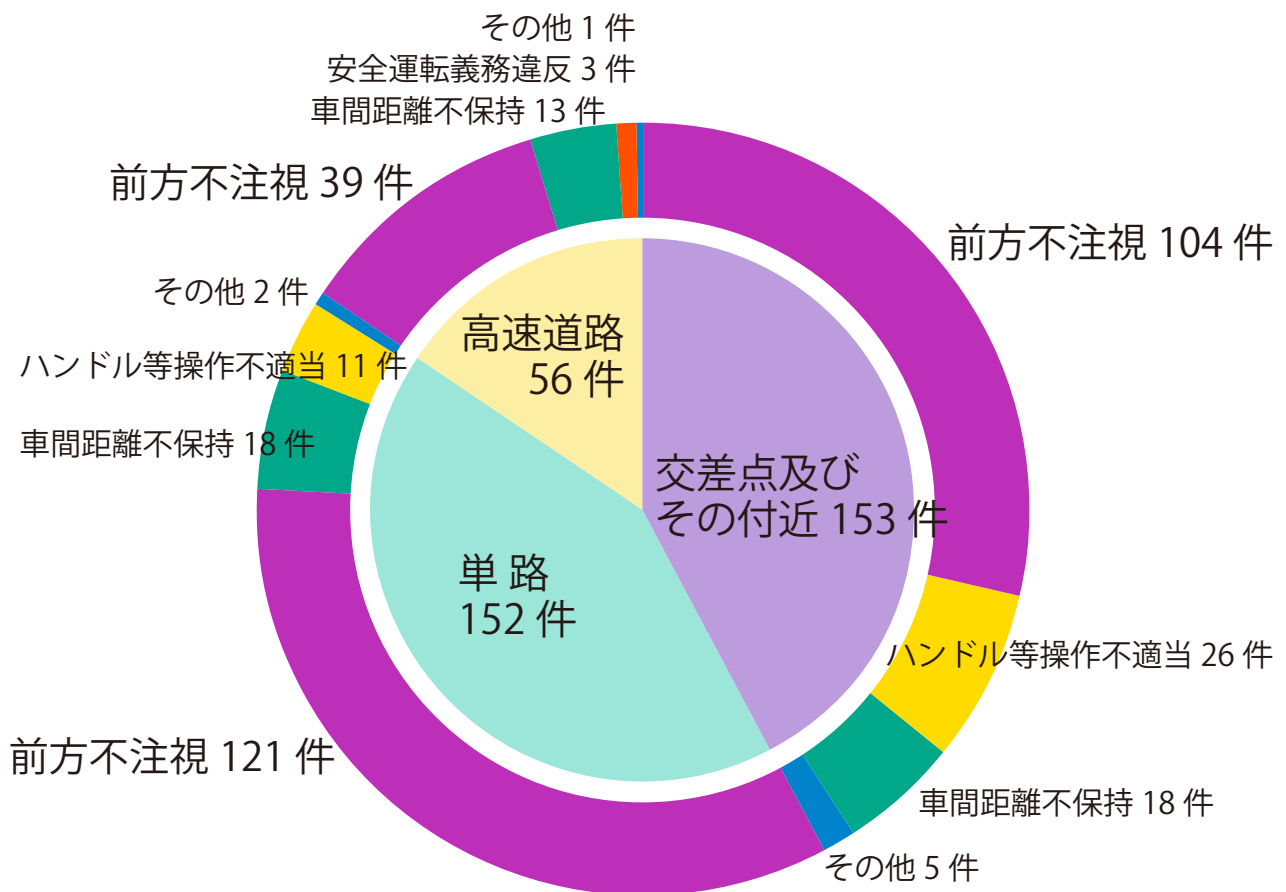
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(平成27年度)

(1) 追突事故の実態

① 追突事故の発生場所別と事故原因(全事故)

追突事故は、道路形状に関わらず、前方不注意が主な原因となっています。

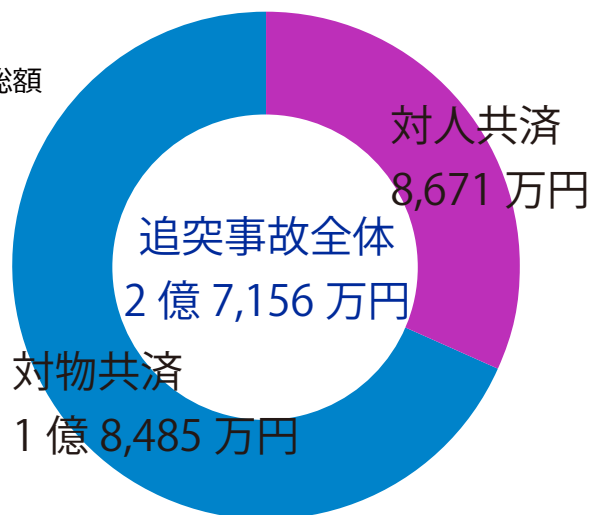
[追突事故361件]



② 追突事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成27年度の追突事故による支払共済金・備金は、対人共済は8,671万円、対物共済は1億8,485万円、総額で2億7,156万円となりました。

これは平成27年度対人・対物共済の支払共済金・備金総額の23.8%となっています。



③ 追突事故防止のワンポイントアドバイス

追突事故は、「前方不注視」・「車間距離不保持」・「ハンドル等操作不適當」が主な原因となって発生しています。

追突事故を防止するには

a d v i c e

1. 脇見につながる行為に注意

渋滞中など速度の出ていない時は、気の緩みからつい前方から目線をそらしてしまいがちです。運転中は前車をはじめ周囲の動向に十分注意してください。

2. 路面状況に応じた速度と車間距離の確保

速度や路面の状況によって停止できる距離は変わりますので、適切な車間距離を取ってください。特に雨や降雪時はいつも以上の車間距離が必要になります。

3. 運転中のスマートフォン・携帯電話の使用は厳禁

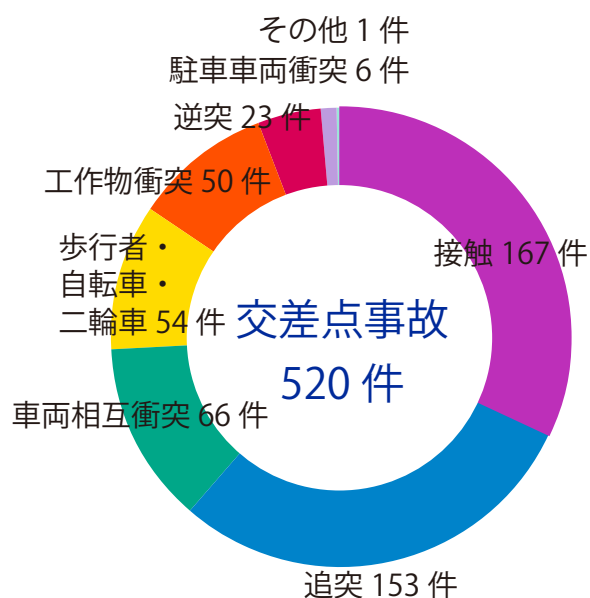
運転中のスマートフォンや携帯電話の使用は事故につながる危険な行為です。

スマートフォンや携帯電話を利用する際は、交通の妨げにならない安全な場所に停車してから行いましょう。

(2) 交差点事故の実態

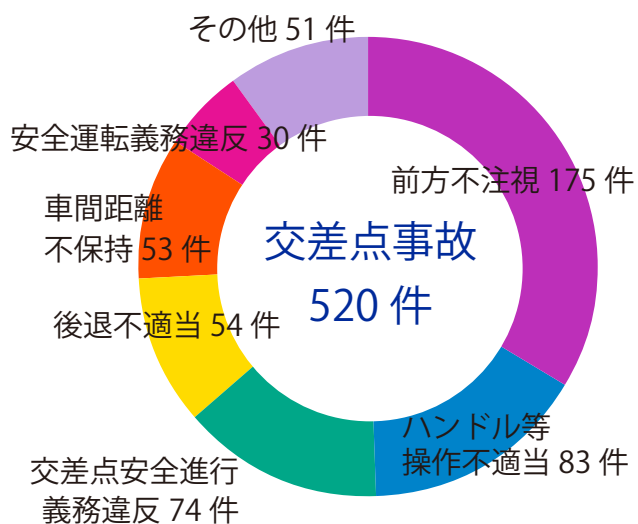
① 交差点事故の類型別事故状況（全事故）

交差点事故の類型別では、接触事故が最も多く、次いで追突事故と続き、全体の6割強を占めています。



② 交差点事故の事故原因（全事故）

交差点事故の事故原因では、前方不注意が最も多く、追突事故の主な原因となっています。



③ 交差点事故（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成27年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金・備金は、対人共済は3億659万円、対物共済は1億1,547万円、総額で4億2,206万円となりました。

これは平成27年度対人・対物共済の支払共済金・備金総額の37.0%となっています。

対物共済

1 億 1,547 万円

交差点事故
4 億 2,206 万円

対人共済

3 億 659 万円

④ 交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点事故は、「前方不注視」・「ハンドル等操作不適當」・「交差点安全進行義務違反」が主な原因となって発生しています。

交差点事故を防止するには

a d v i c e

1. 脇見につながる行為に注意

交差点やその付近では、接触事故や追突事故が多く発生しています。特に信号待ちで前から目をそらした後に発進する際は前方と周囲の状況を十分確認してから発進してください。

2. 確実な一時停止と安全確認

交差点は車と歩行者、自転車等が錯綜する場所です。歩行者、自転車を発見したら停止できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通過してください。

3. かもしれない運転を実践

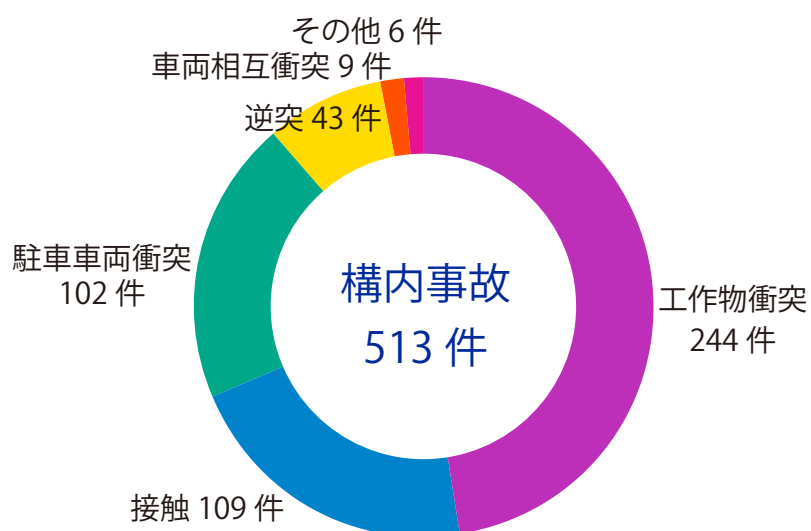
信号の変わり目の駆け込みなど、予想外の行動を相手がすることがあります。

こないだろうの「だろう運転」から、くるかもしれないの「かもしれない運転」を日頃から実践してください。

(3) 構内事故の実態（対物共済）

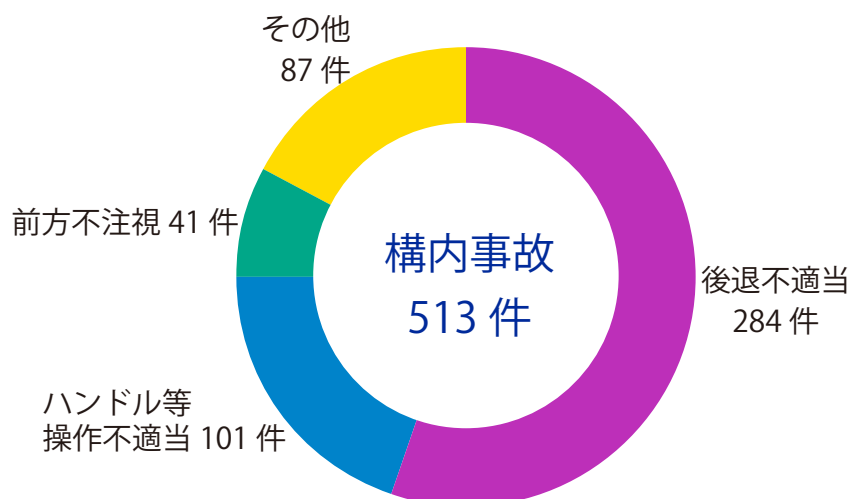
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、構内施設や庇、シャッターなどの工作物への衝突事故が244件発生し、構内事故全体の47.6%と最も多く、近年、工作物への衝突事故が増加しています。

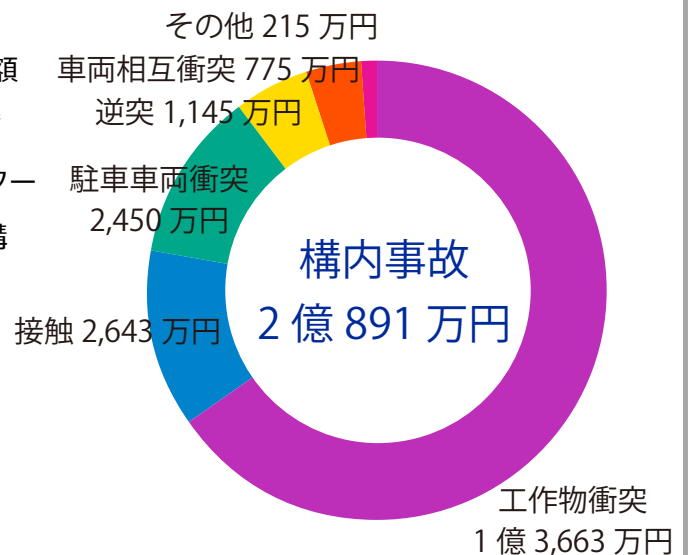


② 構内事故の事故原因

構内事故の原因別では、後方に対する安全確認が不十分な「後退不適當」が284件発生し、運転者があと少し注意を払えば防げる事故が多発しています。



- ③ 構内事故（対物共済）の支払共済金・備金総額
平成27年度の構内事故による支払共済金・備金総額は2億891万円で、そのうち庇やシャッターなど工作物への衝突事故が1億3,663万円と、構内事故による支払共済金・備金の65.4%を占めており、平成27年度対物共済の支払共済金・備金総額の35.8%となっています。



- ④ 構内事故防止のワンポイントアドバイス

構内事故は、「後退時の安全不確認」・「ハンドル等操作不適当」が主な原因となって発生しています。

構内事故を防止するには

advice

1. 後退時の安全確認の徹底

ミラーやバックアイカメラには死角があります。後退時は下車して自分の目で周囲の安全確認をしてください。

2. 確実な運転操作

通い慣れた構内では気が緩みがちです。状況は日々変わりますので、落ち着いて確実な運転操作を心掛けてください。

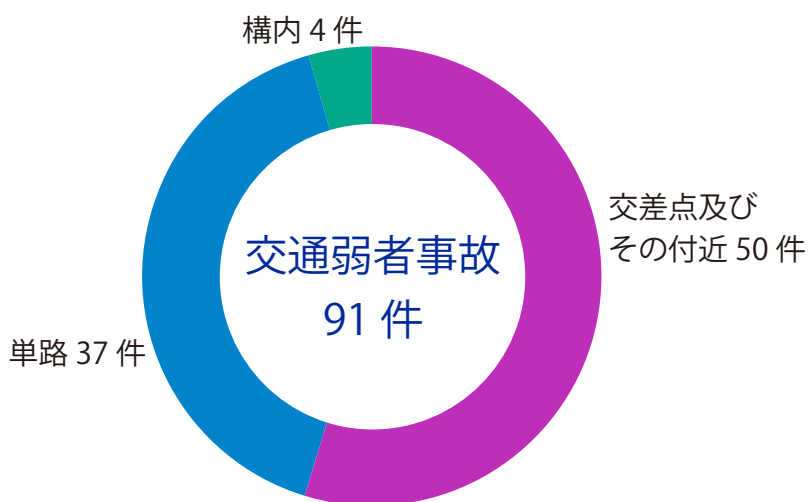
3. 構内ルールを守る

倉庫等、個々に構内ルールは異なります。構内ルールを十分把握し遵守しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態（対人共済）

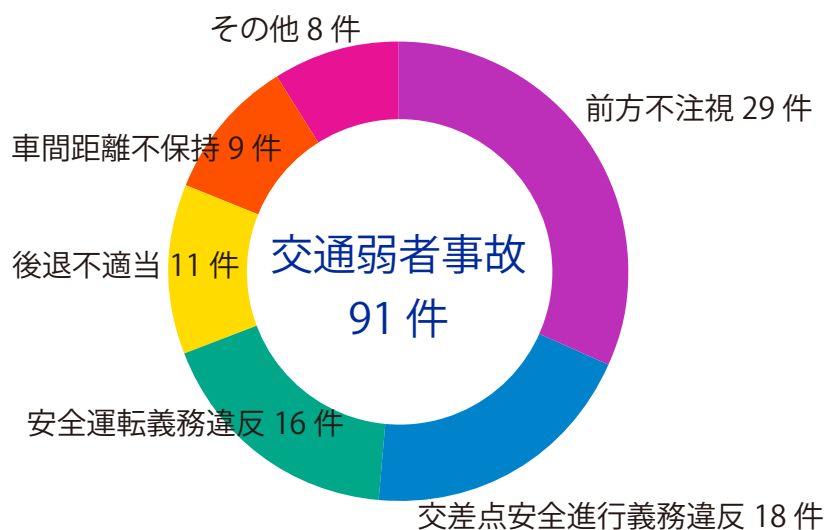
① 交通弱者との道路形状別事故状況

交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）を被害者とする事故91件のうち、50件が交差点及びその付近で発生しています。



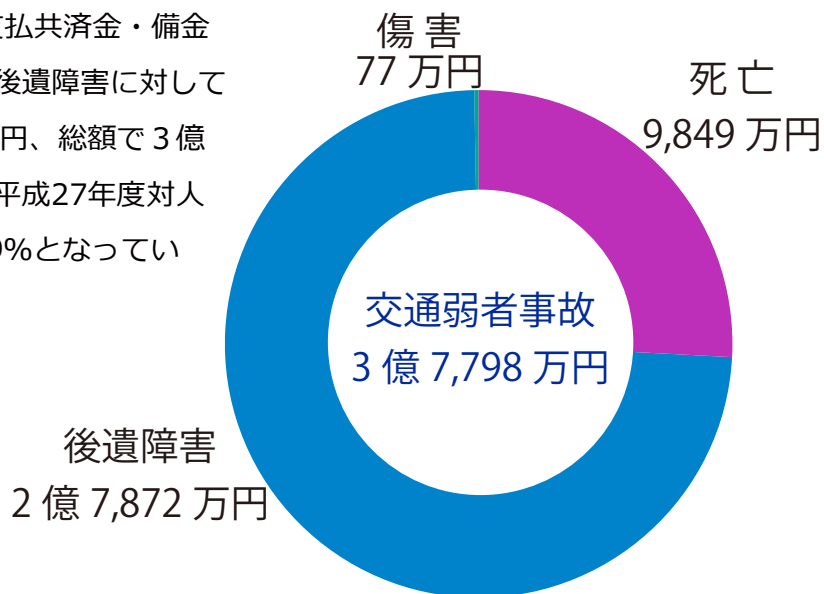
② 交通弱者の事故原因

交通弱者事故の事故原因では、脇見運転などによる発見の遅れや見落としによる事故が29件と最も多く、「前方不注意」・「交差点安全進行義務違反」で過半数を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別（死亡・後遺障害・傷害）の支払共済金・備金総額

平成27年度の交通弱者に対する支払共済金・備金は、死亡事故に対して9,849万円、後遺障害に対して2億7,872万円、傷害に対して77万円、総額で3億7,798万円となっています。これは平成27年度対人共済の支払共済金・備金総額の67.9%となっています。



④ 交通弱者年齢層と事故発生場所

被害者年齢層別では65歳以上が21人と最も多く、近年の特徴として高齢者の被害者数が増加しています。また交差点及びその付近で過半数の事故が発生しています。 (人)

年 齢	場 所			
	交差点及びその付近	単 路	構 内	合 計
6 歳以下				
7~12 歳	1			1
13~15 歳		1		1
16~19 歳	4	1	1	6
20~29 歳	10	9		19
30~39 歳	8	9	1	18
40~49 歳	8	4	1	13
50~59 歳	3	4	1	8
60~64 歳	3	1		4
65 歳以上	13	8		21
合 計	50	37	4	91

⑤ 交通弱者被害者類型・態様別

被害者類型別では、自転車、二輪車がそれぞれ35件発生し、死亡事故については、歩行者が5人と7割強を占めています。

(人)

被害者態様	交通弱者			合 計
	歩行者	自転車	二輪車	
死 亡	5	2		7
後遺障害	6	4	5	15
傷 害	10	29	30	69
合 計	21	35	35	91

⑥ 交通弱者との事故防止のワンポイントアドバイス

交通弱者との事故は、「前方不注視」・「交差点安全進行義務違反」・「安全運転義務違反」が主な原因となって発生しています。

交通弱者との事故を防止するには

advice

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、交差点及びその付近で、脇見運転などによる発見の遅れ、見落としにより発生しています。また後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点通行時は減速し、特に右左折時は周囲の安全確認を十分に行い走行してください。

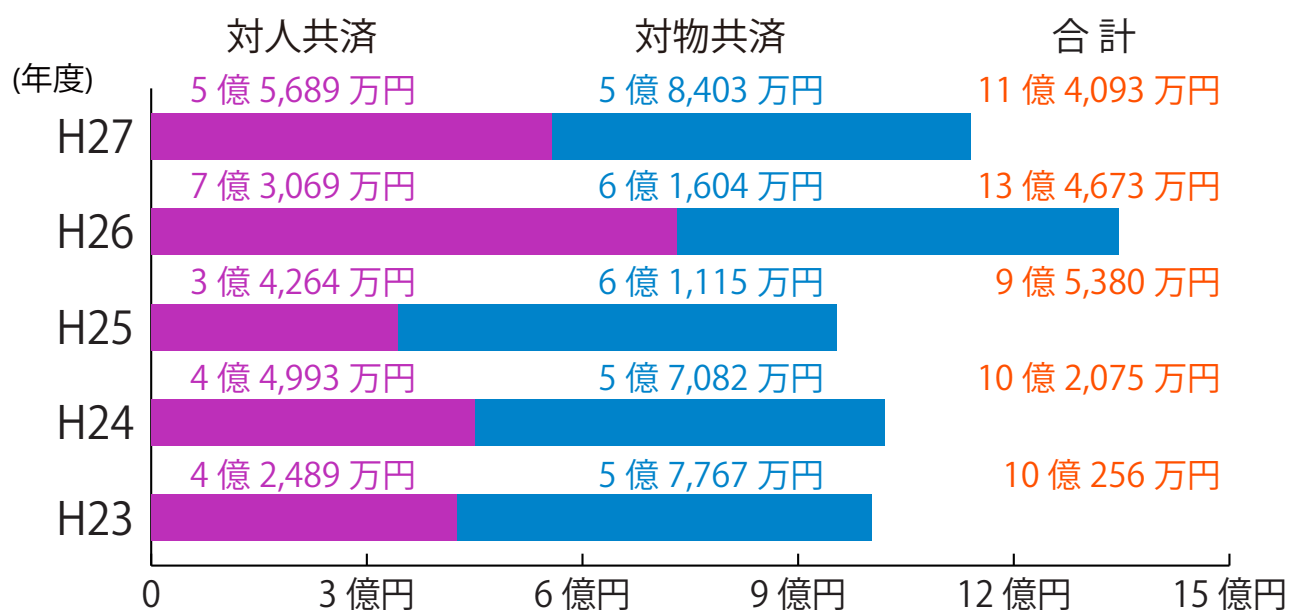
2. 相手の動向を予測した運転を

1. 横断歩道を渡ったと思った歩行者が急に戻ってきた。
 2. 信号の変わり目に自転車が駆け込んできた。
 3. 対向車が道を譲ってくれたので右折したところ二輪車が走行してきた。
- など、相手が想定外の動きをすることがあるかもしれないという「かもしれない運転」を実践しましょう。

4. 発生事故に係る支払共済金・備金総額

過去5年間に於ける共済種目別（対人・対物共済）の支払共済金・備金総額

平成27年度の共済種目別の支払共済金・備金総額は、高額賠償事案が多発した前年度と比べ減少しましたが、賠償額が高騰化する傾向にあり、いずれの種目も増加しています。

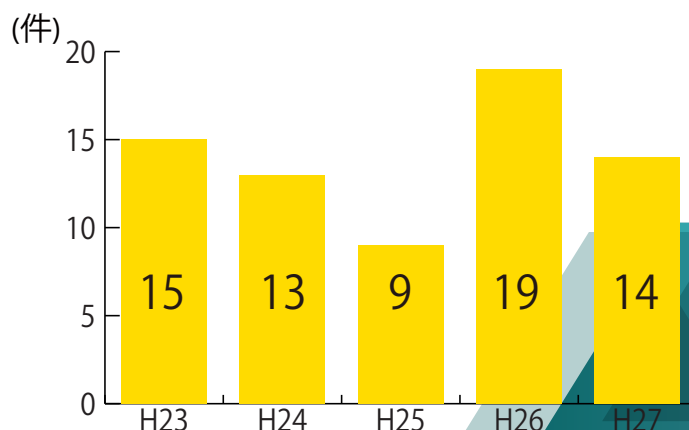


5. 過去5年間に於ける高額賠償事案の事故発生概要

(1) 対人共済

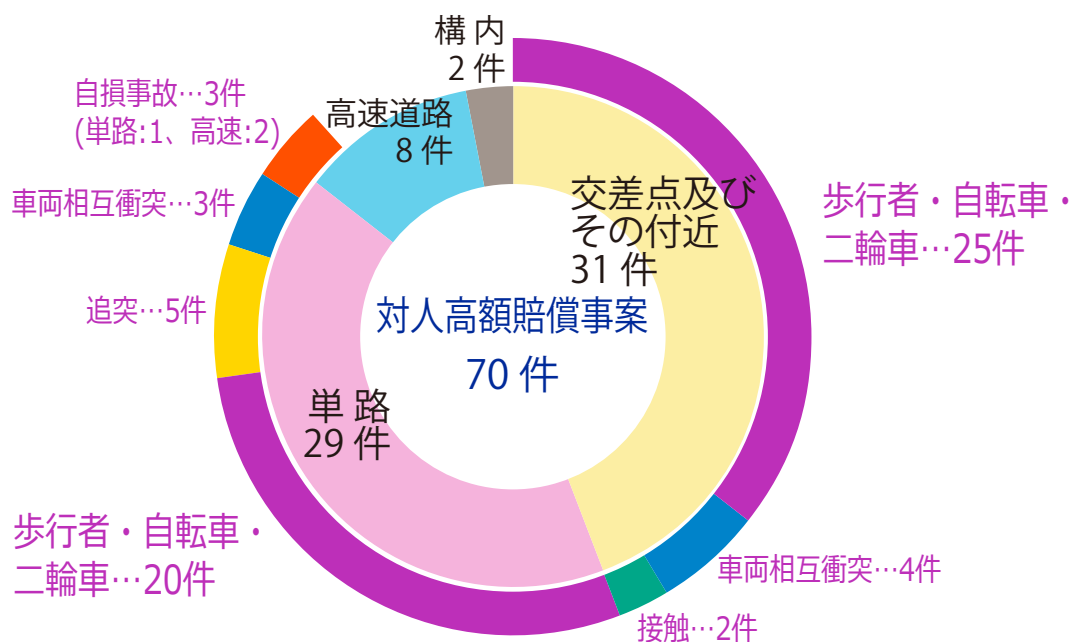
① 高額賠償事案(1,000万円以上)70件の事故発生状況

平成27年度の高額賠償事案は14件の発生で、前年度と比べ減少しましたが、各年度ともに後遺障害事案が8割前後を占める高い状況にあります。



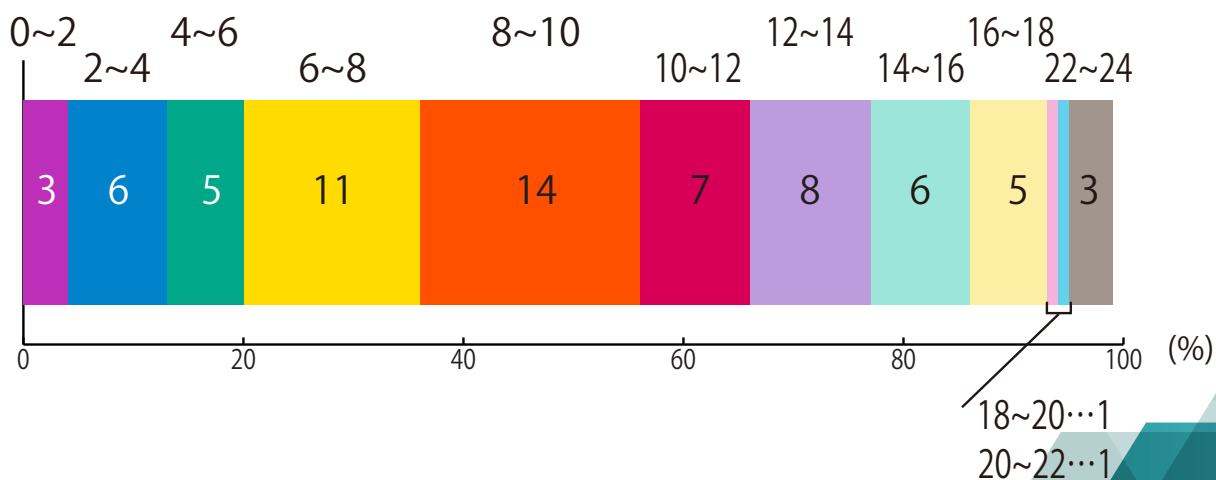
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で31件、単路で29件事故が発生しており、その多くは交通弱者（歩行者・自転車・二輪車）との事故が占めています。



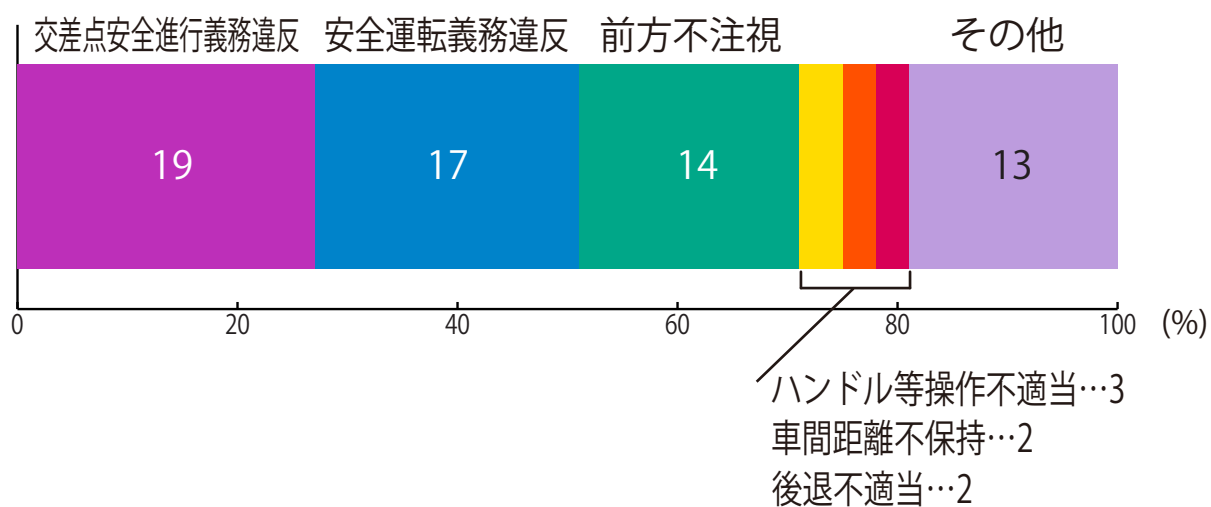
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、交通量が増える6時から10時までの時間帯に多く発生しています。



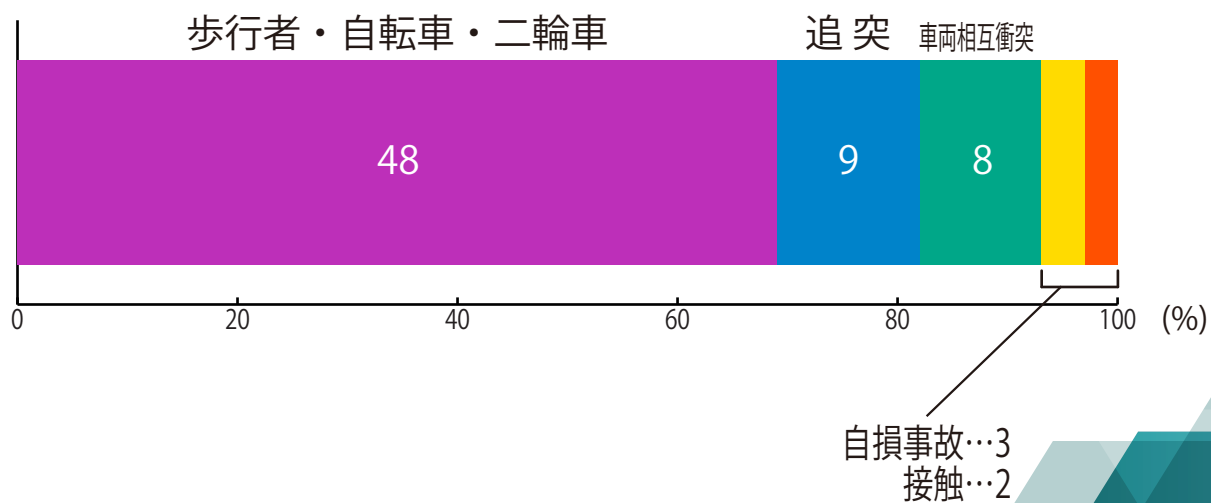
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点左折時の自転車巻き込み事故など、交差点安全進行義務違反による事故が19件と最も多くなっています。



⑤ 類型別の事故発生状況

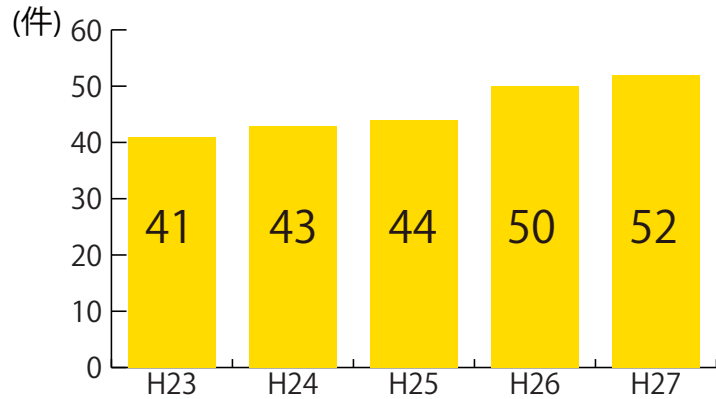
類型別では、歩行者・自転車・二輪車との事故が約7割を占めています。



(2) 対物共済

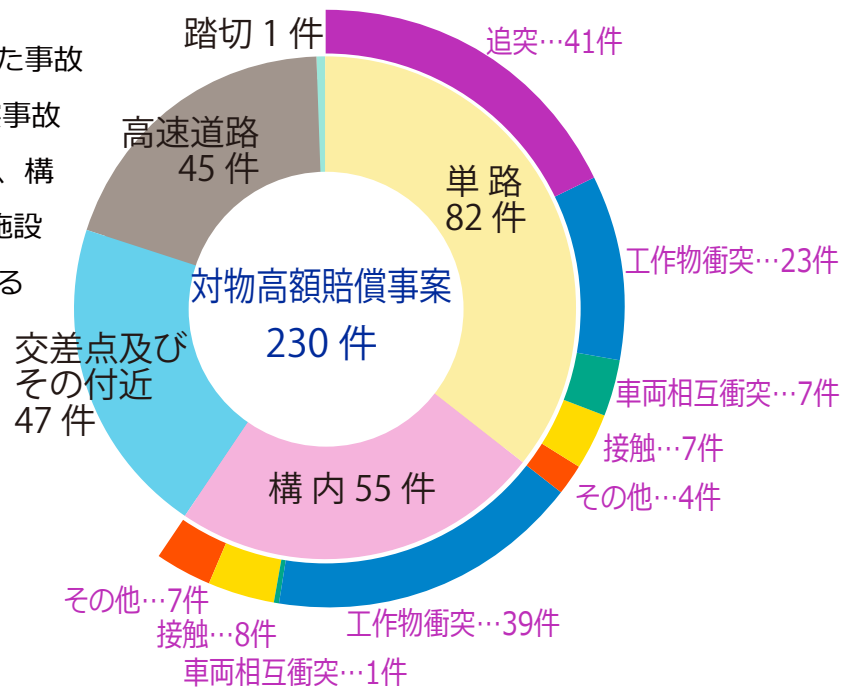
① 高額賠償事案(200万円以上)230件の事故発生状況

平成27年度の高額賠償事案は52件発生し、過去5年間で最も多く、年々増加傾向となっています。



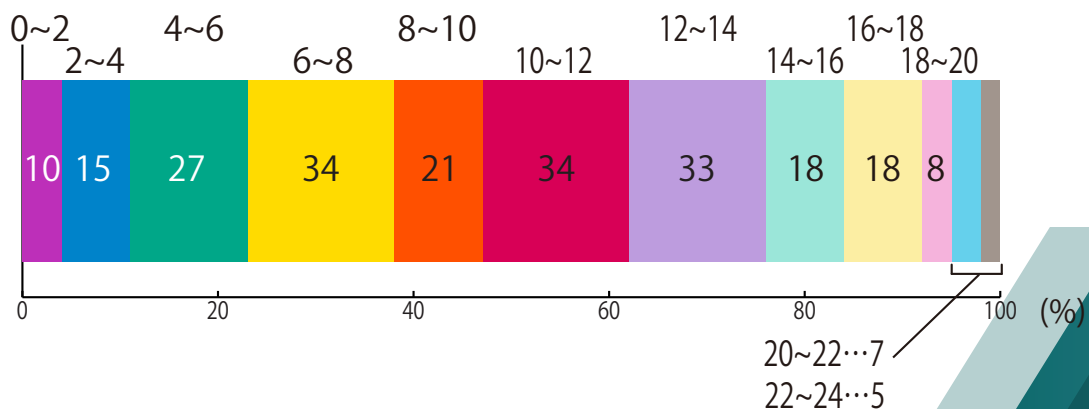
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、単路で発生した事故が82件と最も多く、そのうち追突事故が半数を占めています。また近年、構内事故が増加し、その7割が構内施設やシャッターなど工作物を損壊する事故となっています。



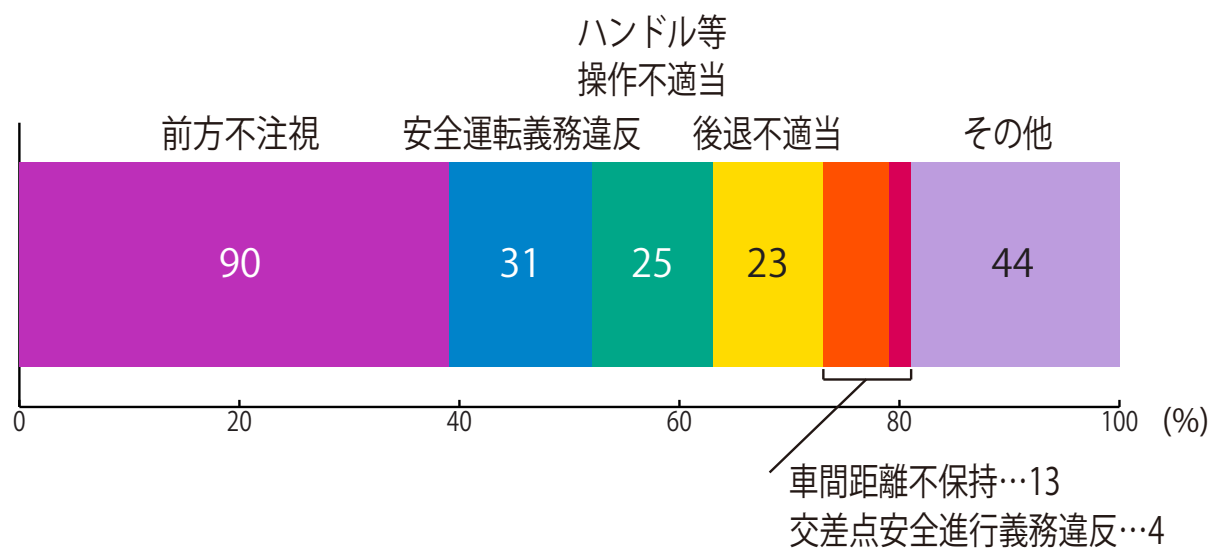
③ 発生時間帯別の事故発生状況

発生時間帯別では、6時から12時までの午前中に89件と全体の約4割の事故が発生しています。



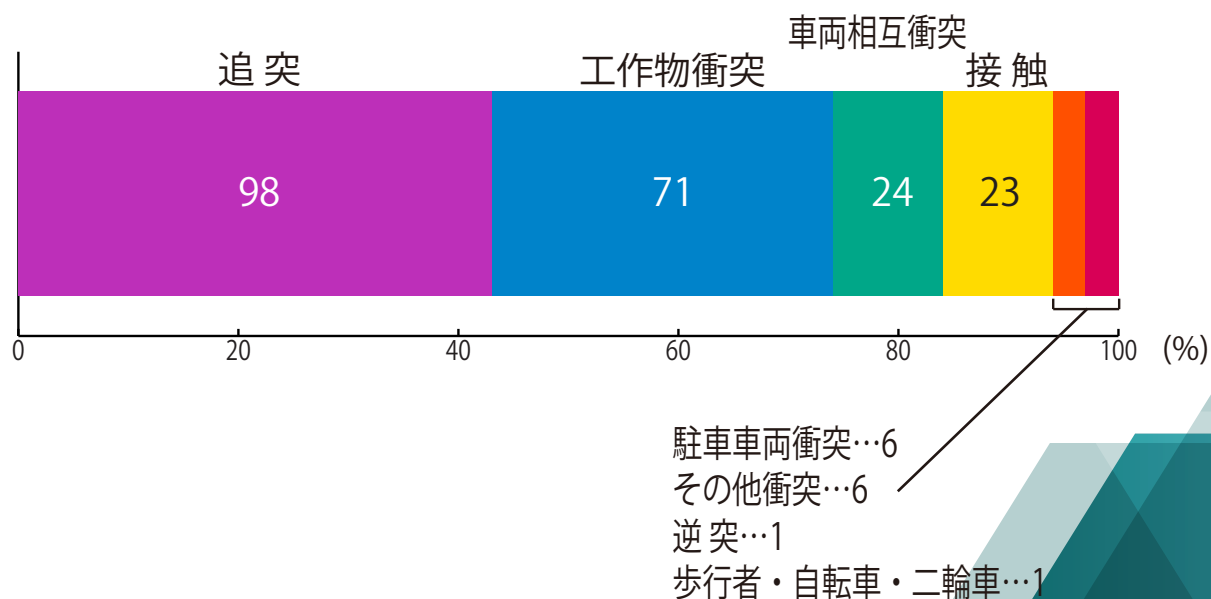
④ 原因別の事故発生状況

原因別では、追突事故の8割強の要因となっている、前方不注意による事故が90件と最も多く、高額賠償事案につながっています。



⑤ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が98件と最も多く、特に玉突き追突による複数車両損壊事案は高額賠償へ発展する傾向にあります。



6. 運転者年齢層別の事故発生状況(全事故)

(1) 過去5年間における運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、40歳代までは単路、50歳以上は構内で最も多く発生しています。

(件)

区分	年齢	19歳以下	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
交差点及びその付近		14	95	130	498	837	614	231	143	1	2,563
単路		29	122	183	639	1,146	737	303	230	6	3,395
高速道路		3	26	48	187	320	172	74	29	1	860
構内		10	56	128	498	915	743	309	270	37	2,966
その他		0	3	1	8	8	8	3	4	0	35
合計		56	302	490	1,830	3,226	2,274	920	676	45	9,819

(2) 過去5年間における運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、24歳までは追突事故、25歳から64歳は接触事故、また65歳以上は工作物衝突事故が多く発生しています。

(件)

事故類型	年齢	19歳以下	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
車両相互	追突	20	80	125	375	625	413	146	98	1	1,883
	逆突	5	26	32	86	152	122	63	42	0	528
	接触	8	74	146	539	965	664	250	185	7	2,838
	その他衝突	3	17	30	163	268	149	72	45	6	753
車両単独	駐車車両衝突	4	18	37	117	200	188	77	61	4	706
	工作物衝突	11	66	94	405	734	537	231	200	11	2,289
	その他	1	1	7	33	54	29	15	10	15	165
歩行者・自転車・二輪車		4	20	19	112	227	172	66	35	1	656
踏切・その他		0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計		56	302	490	1,830	3,226	2,274	920	676	45	9,819

(3) 過去5年間における運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別の事故では、19歳以下は12時から14時、20歳以上は8時から12時の時間帯に多く発生しています。

(件)

時間帯	年齢	19歳以下	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
0~2		0	6	11	35	71	50	18	8	5	204
2~4		1	8	15	49	81	55	22	11	0	242
4~6		2	10	19	93	152	115	58	21	4	474
6~8		3	37	52	215	351	252	115	72	3	1,100
8~10		10	50	85	311	583	419	159	139	5	1,761
10~12		6	60	87	346	577	413	167	140	4	1,800
12~14		14	36	73	245	469	316	131	104	3	1,391
14~16		10	40	64	204	371	287	117	88	9	1,190
16~18		3	31	42	149	269	164	77	47	3	785
18~20		6	13	22	94	159	89	29	25	4	441
20~22		1	9	13	47	79	64	17	11	3	244
22~24		0	2	7	42	64	50	10	10	2	187
合計		56	302	490	1,830	3,226	2,274	920	676	45	9,819

7. 運転者年齢層別の検査・診断結果

(1) 可搬型事故防止機器アクセスチェッカー

可搬型事故防止機器アクセスチェッカーの4検査から出力される11項目の5段階評価値について取りまとめました。

検 査 項 目	検 査 内 容
1. 単純反応検査	画面上に呈示される黄色に対して、アクセルを踏む・離すを繰り返す操作を行う
2. 選択反応検査	画面上に呈示される青・黄・赤色に対して、アクセル・ブレーキを踏み変える操作を行う
3. ハンドル操作検査	画面上の道路に沿ってハンドル操作を行う
4. 注意配分・複数作業検査	画面上の道路に沿ってハンドル操作を行い、四隅に呈示される青・黄・赤色に対してアクセル・ブレーキを操作する
評 価 値 (5段階)	注 意 やや注意 普 通 やや優れている 優れている

※評価値は利用者の各年齢層毎の基準値に対する5段階評価になります。

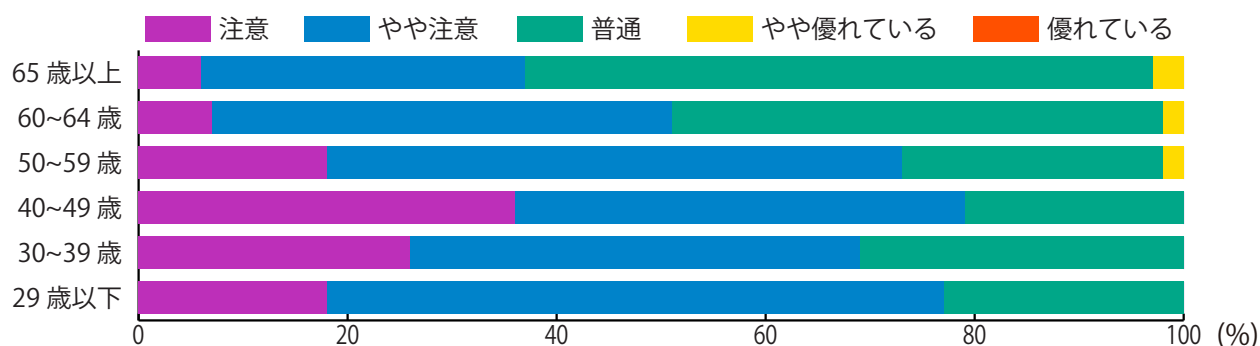
◆検証人数

平成27年7月から平成28年5月の間にアクセスチェッカーを利用した1,437人を対象

年 齢	人 数
29歳以下	72
30~39歳	250
40~49歳	559
50~59歳	362
60~64歳	113
65歳以上	81
合 計	1,437

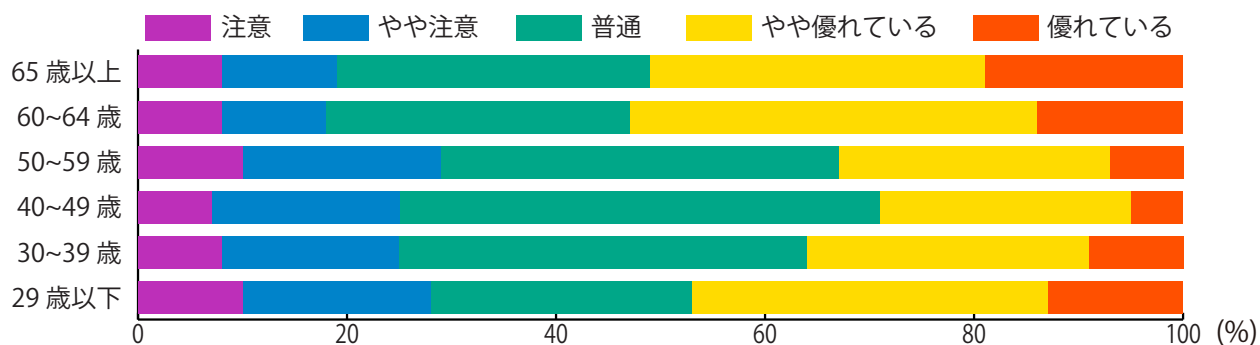
① 運転に必要な反射動作能力(単純反応検査)

ア. 反応の速さについて



課題に対して正しい反応が行われた時に、刺激の呈示から反応までに要した時間の平均時間を算出し、反応の速度を示します。

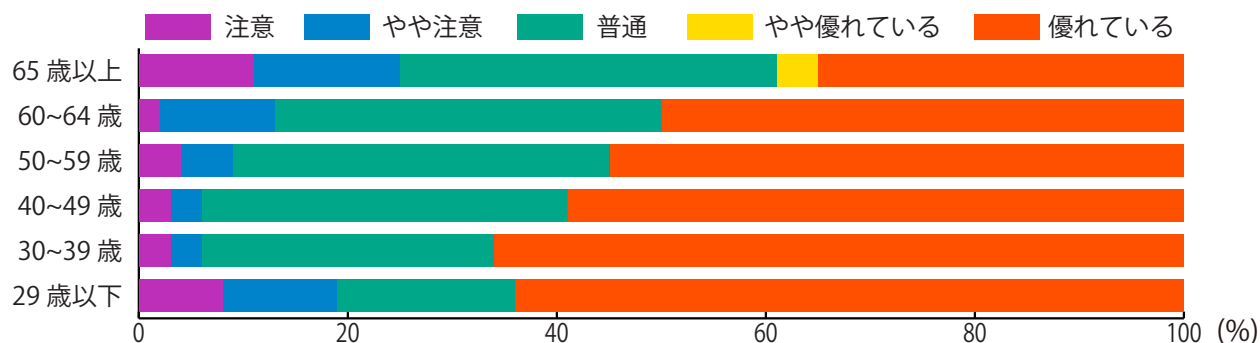
1. 反応のむらについて



刺激の呈示から反応までに要した時間のばらつきを算出し、反応のむらを示します。

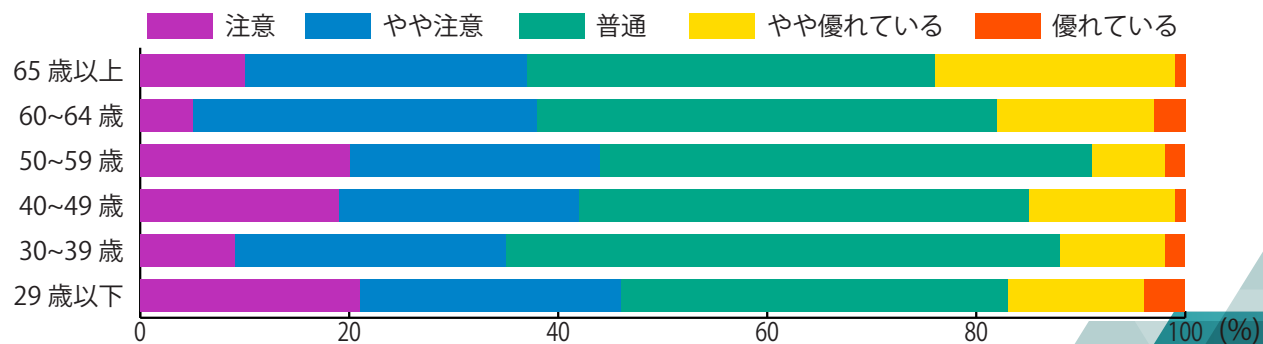
② 状況の変化に対する反応の速さと正確さ(選択反応検査)

ア. 操作の選択の正確さについて



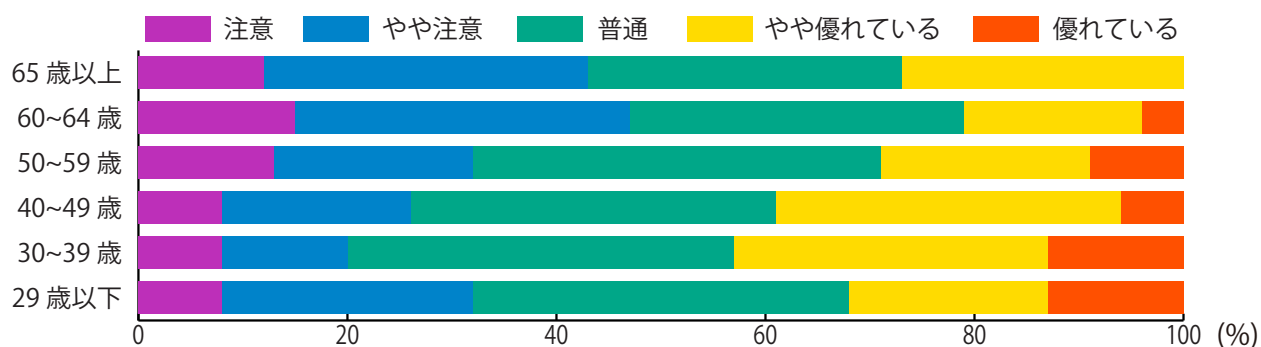
画面上に呈示される青・黄・赤色に対して正しい反応の割合を算出し、正確性を示します。

イ. 操作の選択の速さについて



課題に対して正しい反応が行われた時に、刺激の呈示から反応までに要した時間の平均時間を算出し、反応の速度を示します。

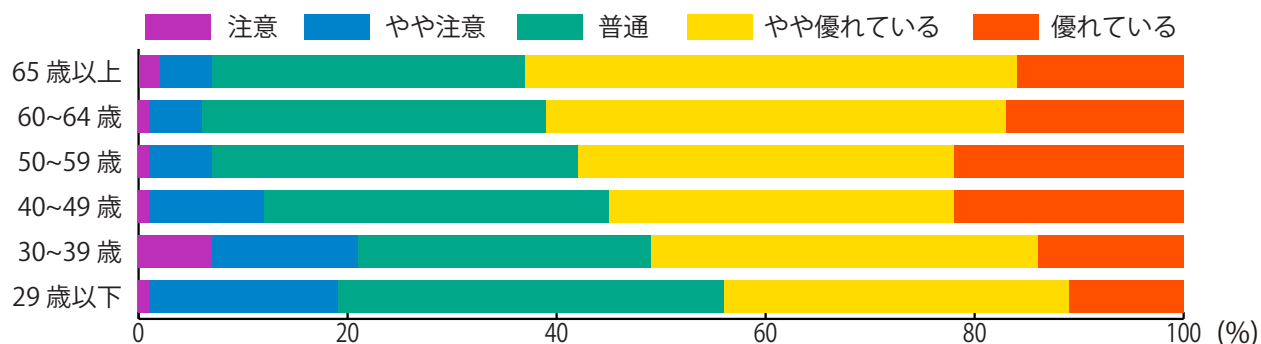
ウ. 操作の選択のむらについて



課題に対して正しい反応が行われた時に、刺激の呈示から反応までに要した時間のばらつきを算出し、反応のむらを示します。

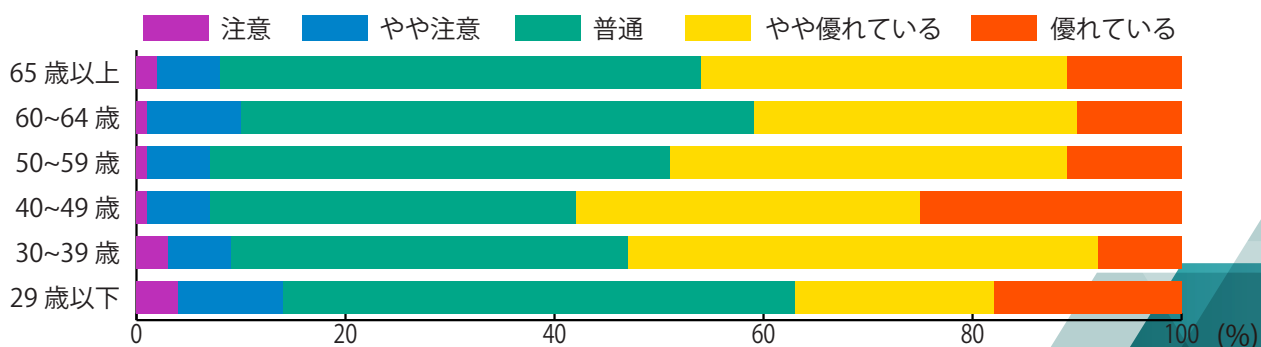
③ ハンドル操作(ハンドル操作検査)

ア. ハンドル操作の正確さについて



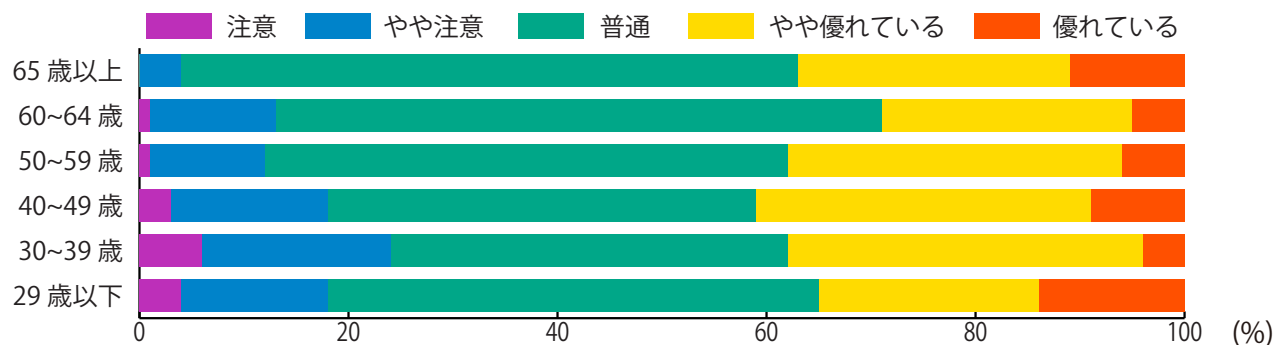
画面上の道路の中心に対する走行位置のずれを観測し、全区間を通したずれの平均を算出し、反応の正確性を示します。

イ. ハンドル操作の進み・遅れについて



運転軌跡と道路中心線とのずれを評価し、コースに対する走行軌跡の進み・遅れから反応の偏りを示します。

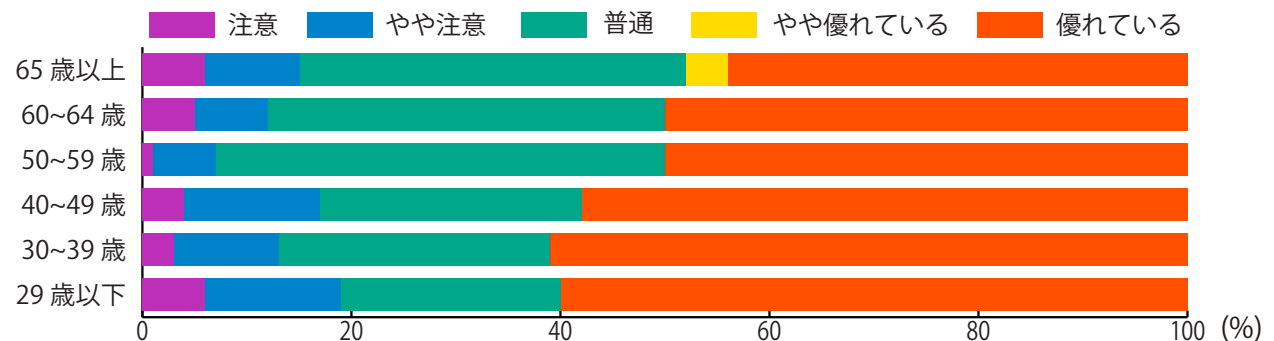
ウ. ハンドル操作の安定度について



ハンドル操作検査の前半部分と後半部分のデータから、誤差を相対的に比較し、節約率（練習効果）を示します。

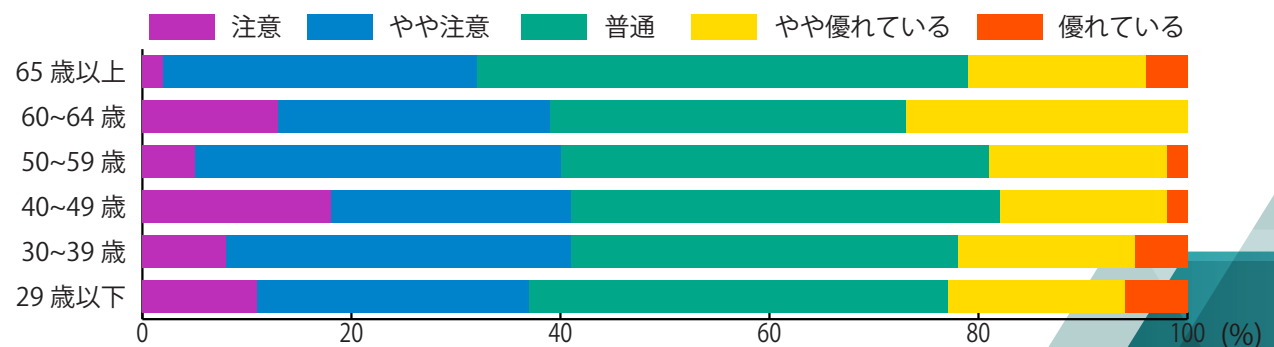
④ 複数課題への注意配分(注意配分・複数作業検査)

ア. 複数の課題への注意の配分の正確さについて



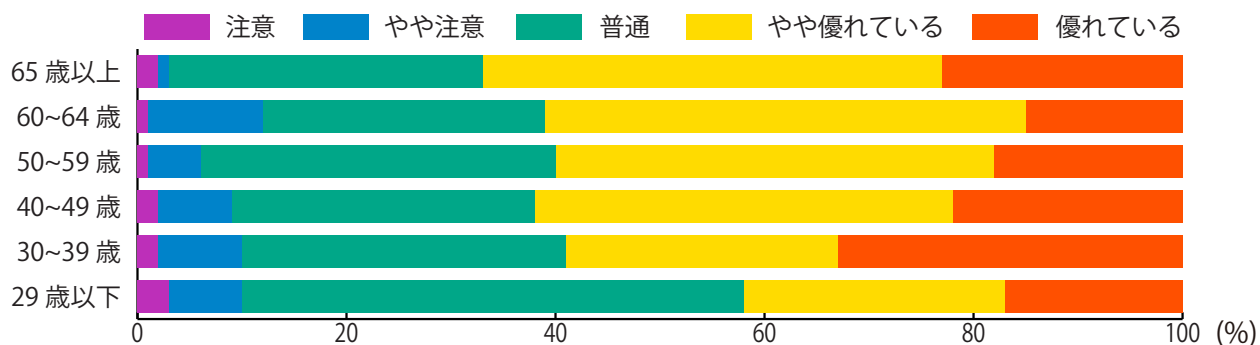
画面上に呈示される青・黄・赤色に対して正しい反応の割合を算出し、併せてハンドル操作検査を行うことにより、分散する刺激に対する反応の正確性を示します。

イ. 複数の課題への注意の配分の速さについて



課題に対して正しい反応が行われた時に、刺激の呈示から反応までに要した時間から平均時間を算出し、分散する刺激に対する反応の速度を示します。

ウ. 複数の課題への注意の配分のハンドル操作について



画面上の道路の中心に対する走行位置のずれを観測し、全区間を通したずれの平均を算出し、集中させる刺激に対しての反応の正確性を示します。

(2) セフティテスト診断結果

◆検証項目

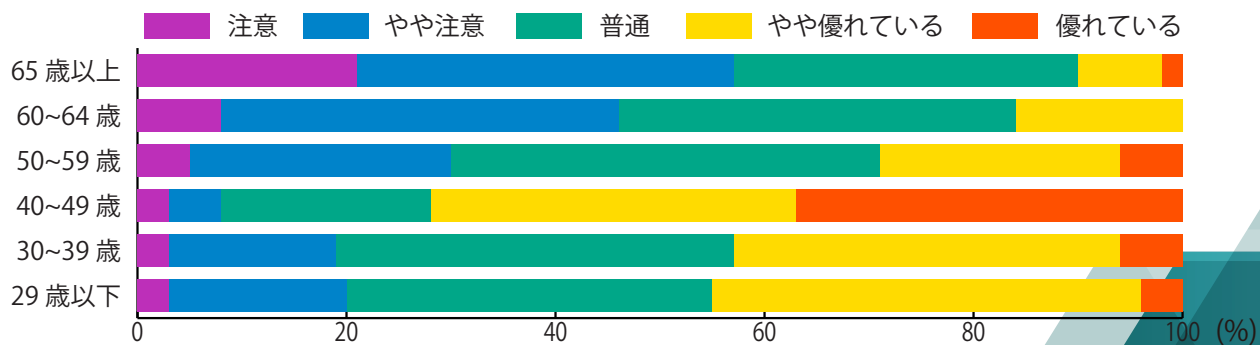
当組合で実施している安全運転トレーニングセンター、特別指導講習、特別適性診断のカリキュラムに含まれるセフティテストの検査結果の5段階評価について取りまとめました。

◆検証人数

平成27年4月から平成28年3月の間に
セフティテストを実施した1,647人を対象

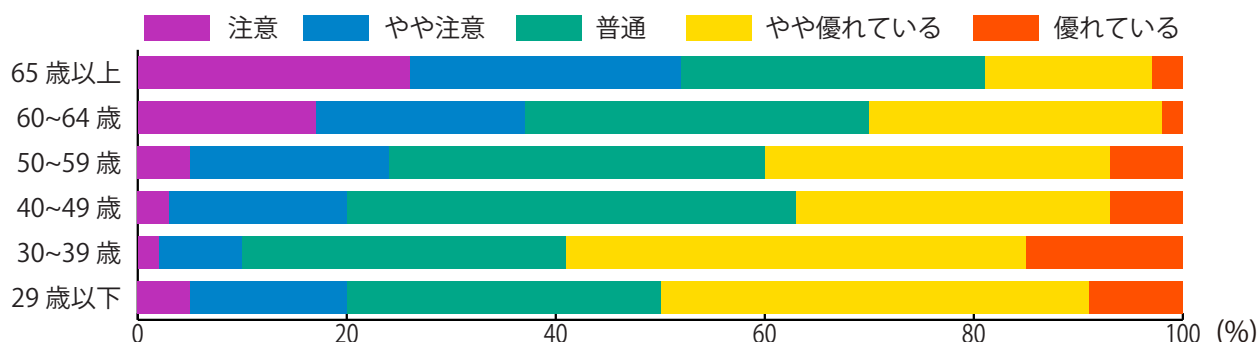
年 齢	人 数
29歳以下	204
30~39歳	347
40~49歳	569
50~59歳	303
60~64歳	64
65歳以上	160
合 計	1,647

① ものを見たり、判断したり、決心するときの速さについて



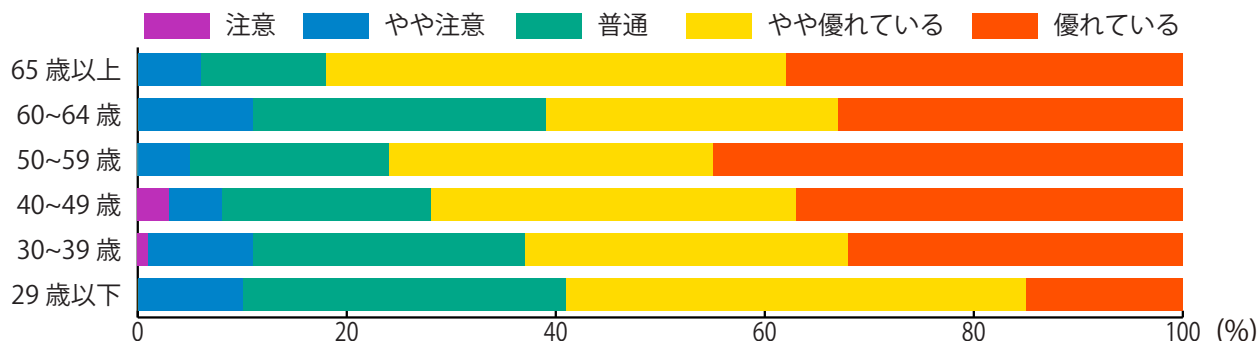
ちょっとした手がかりから、隠れた物を見通したり、別の角度から物を見直してみ
るなどし、精神活動の速さ・頭の回転の速さを示します。

② ものを見たり、判断したり、決心するときの正確さについて



ちょっとした手がかりから、隠れた物を正しく見通したり、注意深くものごとを見つめたりなどし、精神活動および頭の回転の正確さを示します。速くても不正確であるということは運転にとって注意を要すると考える必要があります。

③ 運転するにあたっての性格・態度の特徴について



安全運転に必要な心構えや、社会の決まりに対する態度など、個人のパーソナリティ全般のバランスの良さ、安定度、適応性の良さなどを示します。

「アクセスチェッカー・セフティテスト」検査・診断結果について

可搬型事故防止機器アクセスチェッカー、セフティテストの結果を年齢層別に取りまとめましたが、結果には個人差があり、個人の運転能力を評価して優劣をつけるものではなく、各人の長所や短所を見出し、今後の安全運転に役立てていただくために行っているものです。「機器が判断したもので信用ならない。」等と考えず、自分の特徴を前向きに受け止めて改善することが安全運転の第一歩です。また、事業主および管理者の皆様におかれましては、社員の安全を守るために、社内での安全運転指導の一助としてご活用いただきますようお願いいたします。

8. 交協連傘下15組合の平成27年度事故発生状況

交協連（全国トラック交通共済協同組合連合会）は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

（1）事故発生状況（対人・対物事故）

区 分		神奈川	15 組合合計	15 組合平均	神奈川の割合
共済種目別					
対人	発生件数（件）	463	6,921	461.4	6.7%
	死者数（人）	10	124	8.3	8.1%
	傷者数（人）	618	9,306	629	6.7%
	100 両当りの事故件数	2.75	—	2.23	0.52(平均との差)
対物	発生件数（件）	1,617	29,886	1,992	5.4%
	100 両当りの事故件数	12.13	—	10.79	1.34(平均との差)

（2）原因別事故発生状況（対人事故）

事故原因別	区 分	神奈川	15 組合合計	15 組合の構成比
前方不注視		242	3,447	49.8%
車間距離不保持		48	648	9.4%
後退不適當		40	333	4.8%
ハンドル等操作不適當		34	627	9.1%
徐行違反			5	0.1%
左折違反		2	139	2.0%
右折違反		1	144	2.1%
一時停止違反			30	0.4%
最高速度違反			2	0.03%
優先通行違反			22	0.3%
追い越し違反			76	1.1%
横断（転回）違反			19	0.3%
信号無視		5	128	1.8%
酒酔い・酒気帯び			1	0.01%
安全運転義務違反（安全速度）			22	0.3%
安全運転義務違反（その他）		31	507	7.3%
交差点安全進行義務違反		31	579	8.4%
不明・その他の違反		29	192	2.8%
合 計		463	6,921	100.0%

(3) 類型別事故発生状況（対人事故）

区 分		神奈川県	15 組合合計	15 組合の構成比
類型別				
車両	追突（走行中）	35	633	9.1%
	追突（停止中）	206	2,842	41.1%
	正面衝突	4	83	1.2%
	側面衝突	12	491	7.1%
	接 触	88	1,341	19.4%
	その他	60	375	5.4%
	小 計	405	5,765	83.3%
	（うち 自動二輪・原付）	34	526	7.6%
歩行者		21	368	5.3%
自転車		33	663	9.6%
単独（その他）		4	124	1.8%
列 車		0	1	0.01%
合 計		463	6,921	100.0%

(4) 運転者年齢層別事故発生状況（対人事故）

区 分	神奈川県	15 組合合計	15 組合の構成比
年 齢			
20 歳未満	3	84	1.2%
20～24 歳	21	252	3.6%
25～29 歳	16	365	5.3%
30～34 歳	22	534	7.7%
35～39 歳	45	667	9.6%
40～44 歳	74	1,047	15.1%
45～49 歳	96	1,118	16.2%
50 歳以上	186	2,854	41.2%
合 計	463	6,921	100.0%

（引用：平成 27 年度 交通共済統計年報データ）



〒222-8582 横浜市港北区新横浜二丁目13番地の4
神奈川県自動車交通共済協同組合
TEL.045-475-2134 FAX.045-475-2144
E-mail : infobox@shinkokyo.or.jp
HP : <http://shinkokyo.or.jp/>